

2024年度 大学入学共通テスト 数学 I A(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
変化なし 全体的に誘導が丁寧にされており解きやすい反面、三角比においての小数計算など面倒な問題もあった。	変化なし ページ数としては増えたが、図表が増えているため、文章量としての変化はない。分量は多いままである。	変化なし 大問構成などは変化が無いが、進数の問題や三角比の表から数値を読み取らせる目新しい問題があった。
総評 昨年度同様に誘導なども丁寧にされており、解きやすい問題であった。『図形と計量』では、日常の事象を題材として三角比の表を読み取って解く測量問題が出題された。『整数の性質』では n 進法に関する問題が出題されるなど、現実に即したデータの取り扱い方を考えさせる数学的素養を意識した内容となった。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]数と式 [2]図形と計量	30点	[1]丁寧に誘導がなされており、解きやすい問題である。 [2]三角関数表の読み取りや立式を苦手とした生徒がいるであろう。
第2問	[1]2次関数 [2]データの分析	30点	[1]動点の場合分けが出来れば容易に解答できた。 [2]ヒストグラム、散布図の読み取りが出来れば容易に解答できた。
第3問	場合の数・確率	20点	具体から一般化を考えさせる問題。誘導が丁寧になされており、取り組みやすかったと感じたであろう。
第4問	整数の性質	20点	3・4・6進法の変換問題から不定方程式までを扱ったよく考えさせる問題。流れに乗れば問題なく解答できる。
第5問	図形の性質	20点	メネラウスの定理を使って比を求める問題。☆型からメネラウスの図形が見抜けたかどうか鍵。

高1・2生へのワンポイントアドバイス

電柱と影に関する測量の問題や n 進法の問題など、学校の授業では扱いの少ない部分からの出題もあり、多岐にわたる出題であったことを踏まえ、まずは頻出問題などをしっかりと問題集等で演習を行おう。

平均点以上を狙っていくには、教科書の『研究』や『コラム』の様な考えさせる問題に対してもおろそかにせず、演習を行うことが必要である。特に思考力を必要とする問題は、共通テストの過去問や予想問題集などで演習を積むと良いだろう。